

第2学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「そうぞうをふくらませて読もう」 教材名「ニャーゴ」

2 単元の目標

語のまとまりと響きに注意し、会話や行動のまとまりで音読できる。場面の様子や会話の前後の行動から、登場人物の行動を具体的に想像できる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語のまとまりと響きに注意し、会話や行動のまとまりで音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク）	①「読むこと」において、場面の様子や会話の前後の行動から、登場人物の行動を具体的に想像している。（C(1)エ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

登場人物が相手をどう受け止めているかを、行動や会話の前後から想像する。同じ言葉を聞いても人物によって受け取り方が違う点に気付き、その違いが伝わる音読を試す。学習指導要領のC(1)エを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)クを、言語活動の中で確かめる。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

言う人物と聞く人物の行動を別の欄に記す。会話の前後の行動を確かめてから音読を試す。読み方が違う場合はどの行動を根拠にしたかを話す。おおむね満足できる状況は、場面の様子や会話の前後の行動から、登場人物の行動を具体的に想像しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全12時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1～2	○全文を読み、人物と出来事の大体を確かめる。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	3～4	○会話の前後に誰が何をしたかを整理する。	知①（語句や内容の整理）
	5～6	○言った人物と聞いた人物の受け止め方を行動から考える。	学習状況を見て支援する。
	7 （本 時）	○受け止め方の違いが表れるように音読を試し、理由を説明する。	思①（発言・学習記録）
	8～9	○別の場面でも行動と会話を関係付け、読み方を選ぶ。	学習状況を見て支援する。
	10～11	○音読を紹介し、友達が想像した様子と比べる。	学習状況を見て支援する。
第3次	12	○行動を確かめて音読したことで気付いたことを振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



6 本時の指導 (7/12)

(1) 本時の目標

場面の様子や会話の前後の行動から、登場人物の行動を具体的に想像できる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「この言葉を言った人と聞いた人は、同じことを思っているでしょうか。行動から想像して読み方を考えましょう」 【めあて】登場人物が相手をどう受け止めているかを、行動や会話の前後から想像する。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ言葉でも、言う側と聞く側の様子が異なる。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「この言葉を言った人と聞いた人は、同じことを思っているでしょうか。行動から想像して読み方を考えましょう」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ言葉でも、言う側と聞く側の様子が異なる。 ・次にした行動から、どう受け取ったかを考えられる。 ・相手の様子を見て読み方を変えたい。	言う人物と聞く人物の行動を別の欄に記す。会話の前後の行動を確認してから音読を試す。読み方が違う場合はどの行動を根拠にしたかを話す。 想定する難しさ：言葉の意味を全人物が同じ意味に受け取っていると思う。声の演技だけが目的になる。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 場面の様子や会話の前後の行動から、登場人物の行動を具体的に想像している。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・相手の様子を見て読み方を変えたい。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「この言葉を言った人と聞いた人は、同じことを思っているでしょうか。行動から想像して読み方を考えましょう」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

